ＩＣＴ推進課

小原健稔

現在スタッフは下記３名です。
　小原健稔、中澤章子、大野史晶。

主な活動

・RPA による定型事務作業の自動化

　本格導入に向けて昨年から試行を続けてきました RPA による事務作業自動化について本番運用開始いたしました。

　RPA とは人間がパソコンで行う操作をルール化することで同じ条件でパソコン上の操作を再現するものです。（人に代わってロボットがパソコンを操作してくれるものです）

　現在、医事課、経理課日次の一部業務を対象としております。

　ロボットゆえに深夜や早朝、休日であっても「ルール化した操作」とおりに人に代わってパソコンを操作し、「決まった時間」に「決まったパソコン操作」を自動化するものであり業務時間削減効果が表れています。

【削減効果　概算】
・医事課　病床稼働状況報告書作成、同稼働状況遷移グラフ作成
　業務開始前 25 分程度の作業を RPA で代替
・経理課　当日入金一覧表、同集計表の印刷ならびに返金対象者一覧表作成
　業務開始前 15 分程度の作業を RPA で代替

⇒年間　約 240 時間の時間削減

　今後も単純作業の RPA 置き換えを進め、労働力の底上げ、ひいては事務職員のワークライフバランス改善を図るためのひとつの手段として対象業務の拡大を図ります。

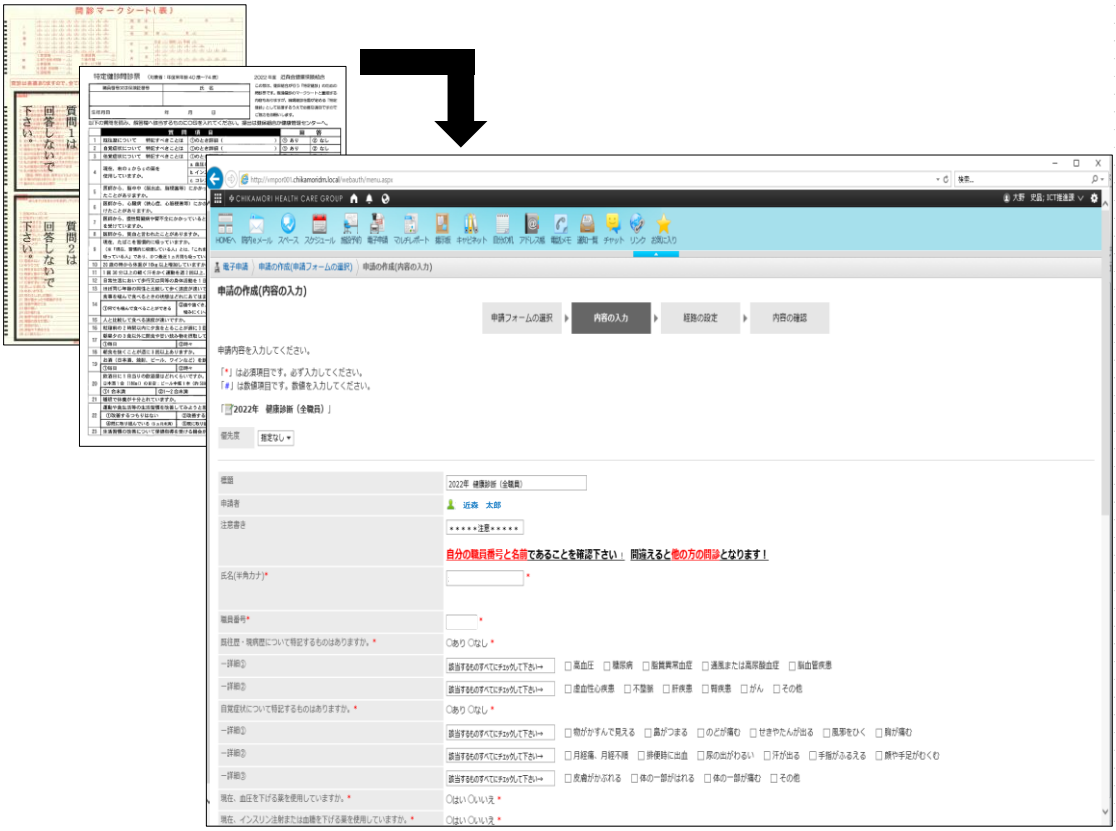
・問診の電子化と統合

従前は毎年、「全職員対象の健康診断」そして「40 歳以上の職員を対象とした特定健診」それぞれで問診を記載し、２通提出いただいていました。

「全職員対象の健康診断＿問診」はマークシート方式であり、マークシート（用紙代）の高騰や同読み取り機械の耐用年数をとうに経過しており故障のリスクも高かったこと、加えて「特定健診＿問診」においては記入、提出いただいた問診記載内容をパソコンへ手入力していました。

これら業務の効率化と機器障害リスクの低減を図るため、「問診の電子化」と「統合」を併せて行いました。

これにより、職員はサイボウズ上で１回だけ問診を提出いただくだけでよくなった上、提出いただいた問診内容は電子的に健康管理システムと特定保健指導システムに連携されるため、年度ごとの「マークシート購入」や「読み取り機のメンテナンス」、「特定保健指導システムへの手入力」も省略し、大幅な全体効率化を実現できました。



本件につきましては健康管理センター、健保組合の方々にもご協力いただき、円滑な本番運用稼働に至っております。事務負担の軽減と用紙代の削減、問診記載にかかる負担軽減まで実現した本案件はまさに ICT 化によるモデル案件であったと感じています。

・取引業者入館管理システムの導入

昨今、コロナ禍の中、世間一般的に面会制限に加え、業務上の往来についても不要不急のものについては制限をかけざるを得ない社会情勢となってきています。

当院においても日々、必要な薬品や資材の納入、搬入の際につど「入館記録票」の記載、提出をいただいた上で、必要な場合にのみ入館を認めさせていただいていますが、時間帯によっては同記録票記載の列ができる等「受付まわりの混雑が目立つ」ようになりました。

そこで、「経常的かつ入館目的が明確となっている業者」に限り２次元バーコードを使った入館証を発行し、これを入館時にバーコードリーダに読み込ませることで「入館記録票記載の手間」を低減させ、混雑解消を図りました。

現在、本館受付と管理棟 2 階受付に 2 次元バーコードリーダを接続したノート PC を設置しており、40 名ほどの業者に本方式での入館をしていただいていますが、大きな混乱もなく円滑に運用できています。

・その他各種業務支援

＜情報セキュリティ対策＞

2022 年は他にも情報セキュリティ対策として「標的型攻撃メール訓練」を実施しました。

医療機関を標的としたサイバー攻撃は国内各所で報道されており、法人規模の大小にかかわらず被害の報道がされており、当院においてもまったく「対岸の火事」ではなくなっています。

また攻撃手段は日々、巧妙化の一途をたどっており、システム的な防御策だけでセキュリティレベルを維持することは困難となってきていることから職員の情報セキュリティリテラシ（知識や能力）向上を目的として「標的型攻撃メール訓練」を実施いたしました。

今後もソフトとハードの両面から院内の情報システムを守るための施策を図っていきたいと考えています。

＜他部署支援　web 講演会や研修サポート、看護部支援＞

感染対策上からも求められている院内研修や講演会のハイブリッド化（会議室と web の平行開催）の機会が増加してきており、360 度カメラを搭載した新たな機材の導入や、依頼のあった各種講演会、研修委員会等のサポート件数は年間約 190 件に上っています。

web 会議は世間的にも一般化してきたことから、今後はより簡便な手順で web 会議が開催できるよう手順書等を整え、職員の方々がフレキシブルに開催できるようなお手伝いをしていきたいと考えております。

また看護部で運用している「看護勤務管理システムの効率的な運用を目的とした事務サポート」を開始いたしました。

本件は看護勤務管理システムの有効活用と公的な届け出書類の円滑な作成を目的として、看護部所属職員の免許や資格情報を整理するところから着手しております。

総括

感染対策や情報セキュリティ対策、喫緊の課題は多いですが、ICT（情報通信技術）は、それらを乗り越えるためのひとつの道具となりうるものと考えています。

現場の方々といっしょに考え、技術のチカラと工夫で乗り越えていきたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願いいたします。